

18年間ありがとうございました。

川上ダム通信

独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所

【名張事務所】☆お問い合わせはこちら（3月31日まで）

〒518-0413 三重県名張市下比奈知 2811-2 TEL: 0595-52-3690 (代)

【管理棟】〒518-0298 三重県伊賀市阿保 2171-12

川上ダム通信は川上ダムホームページでもご覧いただけます。

<https://www.water.go.jp/kansai/kawakami/joho/damtsu/index.html>

又は「川上ダム通信」で検索



川上ダム公式 Twitter

https://twitter.com/jwa_kawakami



最終号

Vol. 212
Since 2005

所長挨拶

日頃より、川上ダム建設事業へのご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。現在、川上ダムは、試験湛水中ですが令和5年4月からは建設事業から管理業務へ移行し、試験湛水を継続しながらダム運用を始めるところです。これまでダム建設にあたり、ご協力をいただきました関係者の皆さまには、この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

この川上ダム通信は平成17年4月から毎月1回、職員が紙面作成を行い、これまで211回発行し、18年の間、地域の皆さまへ川上ダムの進捗状況や地域の話題等をお届けしてきました。このたび、令和5年4月からの管理移行に伴い、今回を最終号として、川上ダム通信を終了とさせていただきます。

平成17年のダム通信の創刊当時は、前年度に川上ダム建設事業により、移転された方々の移転地での開村式が行われ、また、付替道路の松阪青山線の一部供用も行われた状況でした。その後、平成21年にはダム検証が行われ、約6年間の審議を経て、平成26年に国土交通大臣から「川上ダム建設事業は継続」との対応方針が決定されました。平成29年からはダムの本体工事を本格的に開始し、令和元年9月にはダム堤体コンクリートの初打設を行い、令和3年4月にはダム堤体コンクリート打設が完了しました。その後、警報設備や放流設備等を整備し、令和3年12月16日から試験湛水を始めました。

ダム堤体工事を行うにあたっては、ダムに使用する骨材を購入することとしたため、一時的にダンプトラックが一般道路を通行することになりましたが関係する地域の皆さま並びに三重県・伊賀市の道路管理者の皆さまのご理解とご協力をおもちまして、約1,000,000m³の骨材を運搬することが出来ました。改めて、感謝申し上げます。

令和5年4月からはダムを本格的に運用し、ダムの目的を発揮させることはもとより、地域の皆さまにも親しんで貰えるようにダムを管理していきたいと思っております。また、ダム湖名も「あおやま川上湖」に決まり、今後、ダムを活かした地域活性化にも力を注ぎ、関係自治体や地域の皆さまと協力していきたいと思っております。

最後になりますが、これまで川上ダム通信をご愛読いただきましたことを改めて御礼申し上げます。



【所長 津久井 正明】

副所長挨拶

川上ダム建設事業につきまして、ご理解ご協力を賜り誠にありがとうございます。
管理業務へ移行することができるのも、ダム建設に伴い先祖伝来の貴重な土地を提供いただきました地権者の皆さまの深いご理解とご協力あつてのことと思っております。この場をお借りして御礼申し上げます。

ダム通信は、若手職員を中心に編集を行うことで、どのように表現すれば多くの方々の興味を引き、ダムを身近に感じていただけるのかを自ら考え、工夫を凝らす機会を得ることができたと思っております。

最後になりますが、若手職員の成果をご愛読頂き、誠にありがとうございました。

【副所長・事務 花田俊幸】



平素より川上ダム建設事業に、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、建設事業から管理業務に移行するにあたり、皆さま方に温かい目でご愛読いただきました「川上ダム通信」につきましても、本誌をもって最終号とさせていただきますこととなりました。

建設事業を振り返ると、昭和56年実施計画調査の開始から、長い年月を経て管理移行を迎えることができました。改めて御礼申し上げます。

川上ダムとしては、これから本番となります。安全で良質な水を安定して安くお届けするとともに、洪水のはん濫被害から地域を守り、安全で豊かな社会づくりに貢献して参ります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

【副所長・技術 宮本和樹】



歴代所長挨拶

川上ダムの新しい時代の役割に期待を込めて

川上ダム通信の読者の皆さん、長い間、温かく見守っていただき、感謝申し上げます。200号を超える積み重ねの中で、第30号から68号まで編集長を務めさせていただきました。

川上ダムは、関係の皆さまのご支援、ご協力のもと、46年の歳月を経て、間もなく、竣工を迎え、所期の目的を達成すべく、管理の段階に歩を進めてまいります。広く淀川流域の多くの方々の意見を踏まえて、練りに練られた事業計画は、下流伊賀地域に加えて、先行して整備された木津川上流ダム群の効用をも末永く高めるものと期待しています。

川上ダム通信は、事業の現状をお知らせするだけでなく、地域の歴史や文化を取材し紹介する役割を担ってきました。復活した藤原^{ちかた}千方伝説の催しに参加し、床並川^{とこなみがわ}の^{おうけつ}罅穴（^{ちこべがいで}血首ヶ井戸）上流付近で転倒し、数秒、記憶を飛ばしたことなど、忘れられない思い出です。

川上ダムは、環境配慮の時代に計画、建設されたダムとして、気配りの効いた水源施設となりました。これに魂を吹き込み、地域に愛されるダムになる、水資源機構と地域の皆さまの協働作業に注目してまいります。

所長在任期間：平成17年10月1日～平成23年4月30日

【及川拓治】



歴代所長挨拶

ダム検証をクリアし、 いよいよダムが完成する喜び、そして感謝

私が着任した平成23年5月、川上ダムはいわゆるダム検証のさなかでした。自分に課せられた使命は唯一つ、一日も早くダムを完成させるべく速やかに検証を終わらせ本体工事発注に繋げることだと理解していました。当時は今よりずっとダムに対する逆風が強い世情だったせいも、検証は思うように進みませんでした。着任から3年後の同26年8月、ようやく「ダム継続」方針にこぎ着けました。この時は本当に心の底から嬉しく、これで地元伊賀市の皆さまに顔向けできると思ったものです。検証中は地元の皆さまから、「ホンマに歯がゆい、早うダムを進めてくれ」とお叱りを受けることもありましたが、職員がダム通信を配りにお宅へ伺うと「大変やろうけど頑張ってる」と励ましの言葉も頂戴しました。このような地元の皆さまの温かさに支えられ、また、業務に尽力した職員により、ダム検証をクリアし何とか使命を果たせたと思っています。

いよいよダムの完成が間近となりました。喜ばしい限りです。今改めて、地元の皆さまの長年にわたる事業へのご理解とご協力に深く感謝し、川上ダムが地域の安全と安心に大いに貢献することを期待するとともに、一人のOBとして、ダム建設に携わってきた職員並びにOB各位と今後ダム管理に携わるであろう職員各位にも敬意を表し励ましのエールを送りたいと思います。



所長在任期間：平成23年5月1日～平成27年3月31日

【神矢 弘】

歴代所長挨拶

「川上ダム通信」最終号に寄せて

川上ダム建設所に「ダム検証」が終了した翌年の平成27年4月から29年3月まで勤務させていただきました。着任時の課題はダム本体工事の早期着工に向けた条件整備でした。課題の一つは用地取得と補償で、幸い在任中に漁業補償および発電所廃止補償に関してご理解をいただきました。懸案の一つであったダム堤体敷きに残された用地の取得には、関係者の方々に多大なご協力をいただき、工事発注に大きく前進しました。もう一つの大きな課題は特別天然記念物オオサンショウウオです。保全対策委員会の学識経験者のご指導ご助言のもと保全対策を実施し、特別天然記念物を所管する文化庁との協議においても理解を得ることができました。事業の推進にあたり地元および地権者の皆さま、伊賀市および三重県ならびに国土交通省の皆さまには深甚なご理解とご協力を賜り、紙面を借りて感謝申し上げます。風光明媚な伊賀の地において地域のイベントやマラソン大会などに職員とともに参加したことなどは忘れがたい思い出です。川上ダムがこれからの的確に管理運用され、千年先まで地域の安全と安心に寄与し続けることを期待しています。



所長在任期間：平成27年4月1日～平成29年3月31日

【加納茂紀】

川上ダムを振り返る

川上ダムの調査開始からこれまでの間、様々な出来事がございました。その長きにわたる歴史を、川上ダム通信に掲載された記事と共に振り返ります。

1967~2005

昭和42年
~平成17年

- 1967年 建設省による予備調査を開始
- 1982年 8月10日 水資源開発公団川上ダム調査所発足
- 1992年10月 1日 水資源開発公団川上ダム建設所発足
- 2003年10月 1日 独立行政法人水資源機構へ組織移行
- 2005年 4月 川上ダム通信創刊号発刊



川上ダム通信創刊号

「川上ダム通信」は2005年4月、地域から喜ばれる仕事に切磋琢磨する仲間の情報誌として、発刊をスタートしました。

現在は9名で構成されている発行事務局ですが、創刊当時は5名でした。

最終号である今号は212号目となり、川上ダムの歴史に欠かせない存在となりました。

平成20年 2008

2008年11月17日 付替県道松阪青山線全線供用開始

11月17日付替県道松阪青山線の全線供用開始を迎えるにあたり、地元自治協議会（博要・矢持住民自治協議会）主催の供用開始式典が、盛大に執り行われました。



走り初め



事業者挨拶 及川所長（当時）



開通記念のテープカット

発刊から約9年で、川上ダム通信は創刊100号を迎えることができました。



2017 平成 29 年

2017年 7月11日 ダムカード (ver. 1.0) 配布開始
11月 9日 付替県道青山美杉線供用開始

建設中のダムカード (ver. 1.0) の配布を開始しました。配布開始に合わせて、岡本伊賀市長もカードを受け取りに来所されました。



※現在は配布していません。



岡本市長と「しのぶ」と「にん太」



全線開通を記念して行われたテープカット

県道青山美杉線の付替工事が完成し、供用開始式が開催されました。この供用開始式は、青山住民自治協議会会長連絡会が主催したもので、付替道路事業の事業者である三重県、水資源機構も伊賀市とともに式典のお手伝いをさせていただきました。

平成 30 年 2018

- 2018年 1月 ダム本体建設工事開始
- 2月 転流工着手
- 4月 4日 川上ダム本体建設工事転流式
- 9月 2日 川上ダム本体建設工事起工式
- 11月 オリジナルカード (転流ver.) 配布開始
- 12月 第1回工事現場見学会開催



転流式にて、北牧所長 (当時) による挨拶

川上ダム本体建設工事が1月から始まり、2月には転流工に着手しました。転流とはダム堤体の建設工事の支障とならないように、河川の流れを迂回水路に切り替えることを言います。4月4日には、「川上ダム本体建設工事転流式」も開催されました。転流式当日は、大型土のう等により現況河川を締切り、河川の流れを仮排水路トンネルに迂回させることで、無事転流を終えました。

2018



くす玉開披

9月2日、ダム本体基礎掘削開始に先立ち、「川上ダム本体建設工事起工式」を開催しました。当日は、移転された方々のご家族・ご親族のお子様による「子ども鍬入れ」や、来場者全員による万歳三唱、三重県議会議員、伊賀市議会議長を始め関係機関と地元住民代表者による「くす玉開披」などが行われました。



転流ver.

※現在は配布していません。

11月より、川上ダムオリジナルカード（転流ver.）の配布を開始しました。はじめて仮排水路トンネルに水を流した日の様子がダムカードとなりました。



刻々と変わる現場を背に記念撮影（第1回見学会にて）

12月には、第1回目となる川上ダム工事現場見学会が開催されました。以後、新型コロナウイルスによりやむを得ず中止となった回もございましたが、全29回の見学会が無事に開催されました。どの回も三重県内だけでなく全国各地からご参加いただき、皆さまに日々変わりゆく川上ダムの姿をご覧いただく貴重な機会となったことと思います。

2019 平成31年/令和元年

- 2019年 2月 1日 観眺台オープン
- 7月28日 情報館オープン
- 8月 ダムカレー第1弾誕生
- 9月20日 川上ダム初打設式
- 10月 オリジナルカード（基礎掘削ver.）配布開始
- 12月15日 川上ダム定礎式

2月1日から、ダム工事現場展望台「WELCOME川上ダム 観眺台/みてちょうだい」の一般開放を始めました。オープン以後、多くの皆さまにご来場いただき、川上ダムの名物スポットとなった観眺台は、試験湛水が始まる直前の2022年11月にその役目を終えました。



観眺台/みてちょうだい とダムサイトの当時の景色

2019



情報館には沢山の展示がありました。

7月28日から、ダムの目的や工事の進捗状況のパネル展示などを行い、川上ダムに関する情報を分かりやすくお届けするため、情報館がオープンしました。こちらも観眺台と同じく2022年11月までの間、多くの皆さまにご来場いただきました。



販売当初の写真

8月には、「Cafe Wieder (カフェ・ヴィーダー)」さんが、川上ダムで第1弾となる「川上ダムカレー」をはじめられました。



川上ダム建設所記念撮影

9月20日、堤体のコンクリート打設が始まりました。

当日はダム建設現場にて安全祈願祭を行ったのち、川上ダム建設所職員、ダム本体工事受注者および関係業者が出席をして「川上ダム初打設式」を行いました。

10月からは、基礎掘削の完了を記念し、川上ダムオリジナルカード(基礎掘削ver.)の配布を開始しました。



基礎掘削ver.

※現在は配布していません。



くす玉が割れ「祝川上ダム定礎」の垂れ幕が披露されるようす

12月15日には、「川上ダム定礎式」を行いました。地元川上区の皆さまを始め先祖代々の大切な土地をお譲りいただいた皆さまおよび地域住民代表の皆さま、国会議員、三重県議会議員、伊賀市議会議員、国土交通省、厚生労働省、三重県、関係府県、伊賀市等の関係機関、伊賀川漁業協同組合、ダム本体建設工事施工者、当機構職員等約300名が参加して行われました。

2020 令和2年

- 2020年 1月 ダムカード（ver. 2.0）配布開始
- 3月 ダムカレー第2弾誕生
- 11月 オリジナルカード（コンクリート打設ver.）配布開始

1月には、川上ダム定礎を期に、ダムカードのバージョンアップ（ver. 2.0）を行いました。より完成形に近いイメージに仕上がりました。



販売当初の写真

11月には、堤体コンクリート打設30万㎡達成を記念したオリジナルカード（コンクリート打設ver.）の配布を開始しました。



※こちらが現在配布しているバージョンです。

「いっぷくしてだあ〜こ」さんが、川上ダムで第2弾、川上ダムが位置する地元阿保では初めてとなる、「川上ダムカレー」をはじめられました。



コンクリート打設ver.
※現在は配布していません。

令和3年 2021

- 2021年 4月20日 川上ダム打設完了式
- 11月14日 試験湛水前特別見学会開催
- 12月16日 試験湛水開始



打設完了式の様子

川上ダムの堤体コンクリート打設が4月20日に完了しました。打設完了時には、「川上ダム打設完了式」を開催しました。



堤体全景

2021



職員一丸となって取り組みました

11月14日には、試験湛水前特別見学会が開催されました。ダム堤体の直上流ヤードに入れる最後のチャンスであり、沢山の方々にご来場いただきました。地域連携PTを中心に職員と地元の皆さまで協力して取り組み、大変貴重な経験となりました。



ご来場いただいた皆さまには様々な体験をしていただきました

12月16日より、ダム建設の最終段階である試験湛水を開始しました。試験湛水とは、ダムの本格運用開始に向けて、水を貯められる最高水位まで貯水位を上昇させ、その後確認が必要な貯水位まで降下させることにより、ダム堤体や貯水池周辺地山などの安全性を確認するものです。

ダム建設に関係する皆さまのご協力により、無事に試験湛水を迎えることができました。



仮排水路トンネルの閉鎖後

2022 令和4年

- 2022年 4月 川上ダム通信創刊200号発刊
- 4月 オリジナルカード（試験湛水ver.）配布開始
- 8月19日 川上ダム建設所事務所移転完了
- 12月 6日 ダム湖名決定

発刊から約17年で、川上ダム通信は創刊200号を迎えることができました。また、同月には試験湛水バージョンのオリジナルカードの配布も始まりました。



看板も取り外しました



試験湛水ver.
※現在は配布していません。



創刊200号

8月19日をもって、事務所の移転が完了し、川上ダム建設所（伊賀市阿保251番地）は、幕を下ろしました。1996年10月12日に完成し、以来約26年間、川上ダム建設事業を支えました。



ダム湖名発表のようす

(左から 國枝所長、岡本市長、津久井所長)

12月6日には、水源地域ビジョン策定委員会により、川上ダムのダム湖名が決まりました。柔らかい感じがあり、皆さまに親しんでもらえるイメージがあることから「あおやま川上湖」に決定し、伊賀市役所にて伊賀市長よりダム湖名の発表がありました。

※水源地域ビジョン策定委員会：岡本市長、川上ダム建設所津久井所長、木津川ダム総合管理所國枝所長

令和5年 2023

2023年 1月12日 堤頂及び左右岸天端広場一般開放



ようこそ川上ダムへ

1月12日午前7時より、堤頂及び左右岸天端広場を一般開放しました。午前7時の開放時点では寒さが厳しかったものの、天候にも恵まれ、日中は気温も上がり、絶好の散策日和となったことから、平日にも関わらずたくさんの方々にご来場いただきました。

2023.4.1～

2023年 4月 1日 川上ダム管理開始



2018.12



2019.12



2020.12



2023.1

川上ダム通信に掲載された記事を元に、川上ダムの歴史を振り返ってまいりました。地元の皆さまをはじめ、多くの方々に川上ダム通信をご覧いただき、川上ダム建設事業への理解を深めていただきましたこと、心より感謝申し上げます。

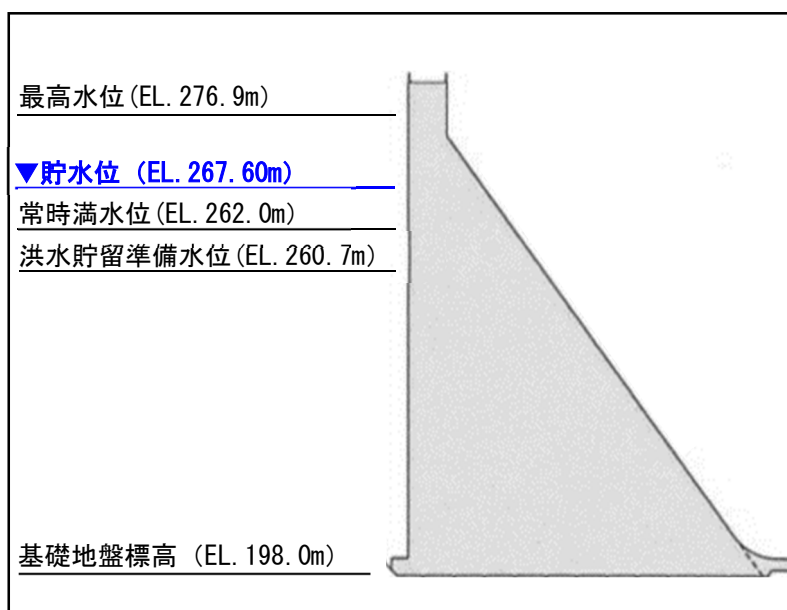
川上ダム通信は最終号となりますが、管理移行後も川上ダムについてお知らせする広報誌を不定期で発刊していく予定ですので、どうぞご期待ください。

試験湛水状況

川上ダムは令和3年12月16日に試験湛水を開始しました。川上ダムの基礎地盤標高EL. 198.0mに対して、令和4年10月6日には洪水貯留準備水位EL. 260.7m-0.2mで水位維持操作に移行し、令和4年10月28日には常時満水位EL. 262.0mに達しました。令和5年3月1日（9時）現在では、貯水位EL. 267.60mに達しており、貯水率（最高水位までの貯水量31,000千 m^3 に対する割合）は71.2%（22,067千 m^3 ）です。

今後は最高水位EL. 276.9mまで水位を上昇させ、その後確認が必要な貯水位まで降下させることで、ダム堤体や貯水池周辺地山等の安全性を確認していきます。

令和5年4月1日の管理開始以降も試験湛水を継続し、川上ダムの竣工に向けて尽力してまいります。



試験湛水状況（令和5年3月1日 9時）

【管理課 北爪 皓】

川上ダム管理所について

川上ダム建設所は、令和5年4月1日より、川上ダム管理所へ生まれ変わります。現在、高山ダム、室生ダム、布目ダム、比奈知ダム、青蓮寺ダムの5ダムを管理している「木津川ダム総合管理所」内に統合されることとなります。引き続きよろしくお願いたします。

独立行政法人水資源機構 木津川ダム総合管理所 川上ダム管理所

住 所：三重県伊賀市阿保2171番地12

電 話 番 号：0595-52-3690

F A X：0595-52-3687

ホームページ：

<https://www.water.go.jp/kansai/kizugawa/kawakami.htm>

お 問 合 せ 先：川上ダム管理所

ダムカード配布時間：8：45～17：15

※川上ダム管理所玄関で、おひとり様につき1枚まで
ご自由にお取りいただけます。



川上ダム建設所 職員より



地域や関係者の皆さまのご理解、ご協力をいただき、お陰様をもちまして川上ダムはここまでくることができました。

また、川上ダム建設所は、本月末に41年の歴史に幕を閉じます。間もなく最後の瞬間を迎える私たちは、一方で新たな歴史の幕開けを見届ける証人でもあります。後生に伝えるためにも堂々たるその雄姿をしっかりと目に焼き付け、それぞれの新しい職場へと旅立ちたいと思います。

川上ダムがこの先も、皆さまのお役に立ち、愛され、地域の誇りとなることを心よりお祈り申し上げます。

【総務課 一同】

現場見学会や地域連携業務など多くの機会を通じて、ご来訪の皆さまや地域の皆さまの温かさに触れることができました。特に地域の皆さまと協力して企画した各種イベント等を全て無事に開催することができたのは、皆さまのご協力のお陰です。川上ダム通信最終号にあたり地域の皆さま、ご来訪の皆さま、購読くださった皆さまに深く感謝申し上げます。

【経理課 一同】

川上ダムは調査所発足からこれまで40年以上を経て、管理に移行します。ダム建設に伴ってふるさとを離れていただいた皆さまとそこご先祖さまはもとより、道路建設等に伴い貴重な財産を譲渡していただいた皆さまへ厚くお礼申し上げます。

川上ダムがよりよく発展し、皆さまの「いこいの場」になってくれますことを切に願っております。

【事業調整役、用地課 一同】

工務課は、事務所の予算・事業監理、防災計画、積算審査等を行い、環境課では主にダム建設に伴うオオサンショウウオ等に対する保全対策を行うことで、ダム建設の一員として携わりました。4月からは無事に管理を迎えることが出来、心から感謝申し上げます。引き続き川上ダムへのご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

【工務課、環境課 一同】

調査設計課は昭和57年の事務所発足当初から延べ96名、工事課は平成9年に発足し延べ61名の職員が在籍し、その時々、職員一人一人が、地元及び関係者の皆さま方のご理解・ご協力を賜り、この度、建設事業全工事の完成を迎えることが出来ました。川上ダム誕生を感慨深く感じますと共に、心から感謝申し上げます。

【調査設計課、工事課 一同】

機械課は、機械・電気通信設備を担当し、ダム建設の一員として携わりました。令和5年4月からは建設から管理へ移行し、設備の本領が発揮される舞台に変わり、何時でも支障無く運用することが使命となりました。機械課は役目を終えますが、設備職員は常駐の予定ですので、安全安心な設備の維持を図ってまいります。

【機械課 一同】

ダムは、調査・計画から管理段階に至るまで数十年の歳月を重ねて、出来上がる施設です。ダム建設により移転を余儀なくされた方々など川上ダム建設事業に多大なるご協力をいただいた皆さまに感謝し、ダムの効果を最大限発揮できるよう洪水時の下流住民の安全・安心の確保、用水の安定的な供給のため、微力ながら、ダムの操作や施設管理を行って参ります。

【管理課 一同】

18年間川上ダム通信をご愛読いただき、ありがとうございました。